

Yumeken

秋

2010 Vol.611

- ◆特集○話題の焦点
“危機への備え”が命と地域を守る
- ◆夢インタビュー
信楽陶芸トリエンナーレ2010実行委員会
- ◆第16回夢けんせつフォトコンテスト
受賞作品紹介
- ◆おじゃまします
◎株式会社材光工務店



“危機への備え”が 命と地域を守る

大規模な自然災害の発生が比較的少ない滋賀県ですが、近年多発するゲリラ豪雨による被害が、今後、県内で発生する可能性は否定できません。また、「琵琶湖西岸断層帯等による地震被害予測調査」によると、最大で約46,000棟の建物が全壊して、死者が1,200人を超える被害が予測されています。

今回の特集では、大切な命と暮らしを守るために、日頃から災害に備えることの大切さについて考えてみました。



ハード、ソフト両面から 豪雨災害に備える

滋賀県で起こりうる豪雨災害としては、主に河川水位の上昇による浸水や、土石流の発生による土砂災害などが考えられます。特に、琵琶湖に流入する河川は比較的短時間で水位が上昇します。

また、滋賀県建設業協会と「災害における河川災害応急普及業務に関する協定」を締結して、地震や洪水などの大規模災害が発生した時には、速やかに協力体制が取れるようにしています。

浸水被害を軽減するために、河道内の樹木伐採や河床掘削を行うことにより、流下能力を向上させたり、堤防の補強工事を行うことで浸水被害の軽減に努めています。瀬田川の流下能力を増すための天ヶ瀬ダム再開発事業や河道改修を進めるほか、日常的には河川のバトロールや管理施設の点検などを行っています。

また、滋賀県建設業協会と「災害における河川災害応急普及業務に関する協定」を締結して、地震や洪水などの大規模災害が発生した時には、速やかに協力体制が取れるようにしています。

豪雨災害に どう備えるか 琵琶湖河川事務所の 防災への取り組み

大津市にある国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所は、治水・利水・環境・利用の調和のとれた河川の保全と再生を目指して、①琵琶湖流域の浸水被害の軽減、②淀川水系における安定的な水の利用、③琵琶湖流域の自然環境の保全と再生、④河川利用・保全に取り組んでいます。

滋賀県内の琵琶湖流域で雨量や水位の観測を常に行うことで、インターネットを通じてそれらの情報をリアルタイムに提供しています。また、琵琶湖河川事務所が管理する瀬田川と野洲川において、雨量や水位から洪水の危険性を予測して、住民や関係機関へ洪水予報・水防警報を発信します。

浸水被害を軽減するために、河道内の樹木伐採や河床掘削を行うことにより、流下能力を向上させたり、堤防の補強工事を行うことで浸水被害の軽減に努めています。瀬田川の流下能力を増すための天ヶ瀬ダム再開発事業や河道改修を進めるほか、日常的には河川のバトロールや管理施設の点検などを行っています。

湖国 街かど ウォッチング

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

甲賀市くすり学習館

平成二十二年八月十日、甲賀市甲賀町の「かぶか夢の森」のすぐ近くに「甲賀市くすり学習館」がオープンしました。甲賀市の地場産業の一つである薬業の振興を図るほか、市民の健康増進、体験学習・交流の場として活用されることを目的としています。

全館バリアフリーで約千㎡の鉄筋平

エントランスホールにある「くすり狩り」の陶板画



屋建て、自然光が射し込む全面ガラス張りのロビーはゆったりと明るく、エントランスホールには「甲賀のくすり狩り」をテーマにした信楽焼の陶板画が掲げられています。

常設展示室では、「配置売薬」と呼ばれる家庭薬工業を中心に発展した甲賀の薬業関連の資料や製薬道具などを展示するほか、美肌診断など健康データをチェックしたり、映像を使った学習コーナーも設けられています。

また企画展示室では、館蔵資料の展示やテーマに沿った企画展を行います。現在は、薬の歴史のパネル展示のほか、「本草綱目」などの薬に関する古い書物が集められています。

ほかに会議室と体験学習室が設けられていて、二つの会議室は間仕切りを取り外すと大人数の会議にも対応できるようにしています。また、体験学習室では小中学生を対象とした理科実験のほか、市民向けの健康ワークショップなどが開催される予定です。

施設は産業廃棄物管理型最終処分場「クリーンセンター滋賀」の市内受け入れに伴う地域振興事業として建設されたもの。人と薬の関わりについて理解を深め、理科離れと言われる子どもたちが科学への関心を抱けるような施設



人と薬の関わりを体験・学習する「くすり学習館」

として活用されることが期待されています。

場所 ● 甲賀市甲賀町大原中898-1
0748(80)8110
開館時間 9時30分～17時
休館日 毎週月曜日
入館・展示室の見学は無料

CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………2	甲賀市くすり学習館……………2
特集・話題の焦点……………3	“危機への備え”が命と地域を守る……………3
夢インタビュー……………6	信楽陶芸トリエンナーレ2010実行委員会 堀井誠明さん 主なイベント……………6
第16回夢けんせつフォトコンテスト…8	受賞作品紹介……………8
おじゃまします……………14	株式会社材光工務店……………14
近江建築探訪……………16	大津市旧大津公会堂……………16
「仕事の達人・遊びの達人」……………17	手塩にかけた飄箏の作品づくりを夫婦で楽しむ 深田賢治……………17
近江うまいもの紀行……………18	湖国の祭りあれこれ……………18
読者の声……………19	表紙写真……………19
「一束一束を大切に」寺尾 幹男……………19	「キノコ」の咲く園」谷崎 進……………19

が、琵琶湖は貯留量は大きいので、比較的水位上昇はゆっくりです。しかし、琵琶湖から流出する河川は瀬田川しかありませんので、一度琵琶湖の水位が上昇すると、これを低下させるのに数日から数週間かかります。琵琶湖と流入河川の水位上昇のタイミングが異なることを理解しておく必要があります。

近年増えている都市型水害（内水氾濫）は、都市のコンクリート化が原因の一つであると言われています。水が土壌に染み込むことなくそのまま河川や排水管に流れ込み、短時間に大量の雨が降ると排水能力以上の水が流入することに よって氾濫が起ります。

平成20年7月には、長浜市で1時間に84mmの雨が降り、浸水被害が発生しました。このような短時間雨量は増加傾向にあるため、今後、頻発化する可能性があります。ゲリラ豪雨の予測については、国土交通省に導入された「Xバンドレーダー」という高性能レーダーが試験運用されていますが、予測できても急な豪雨による災害を防ぐことは容易ではありません。



堤防などを点検して河川の安全管理を行っている。

災害に備える

地域の建設業が果たす役割

感染拡大防止に貢献した地元建設業

今年、宮崎県で発生した口蹄疫では感染拡大を防ぐ目的で、30万頭近い家畜が殺処分されました。獣医師や機動隊、自衛隊員など大勢の人々が防疫対策に取り組む姿が、連日のようにニュースで紹介されましたが、地元の建設会社が大きな役割を果たしていたことは、ほとんど知られていません。

処分された家畜を埋める作業や、消毒作業などに地域の建設会社の従業員、延べ1万2千人が従事しました。建設業の協力がなければ、大量に処分された家畜を迅速に土中に埋めて処理することができず、感染がさらに拡大していたかもしれません。宮崎県に隣接する熊本、大分、佐賀の他、自治体が新たに地元の建設業協会と防疫を対象とした協定を結び動きが全国各地に広がりました。

そのほか、新潟県中越沖地震や岩手・宮城内陸地震など、記憶に新しい大規模災害に対しても、地元の建設会社が被害の調査や復旧工事、二次災害の回避、パトロールなど、さまざまな活動を行っています。

災害発生直後から、最前線で地域を守る

「昔は自治体と防災協定を結んでいなくても、地域で災害が起きた時には、地元の建設業者が地域住民と協力して、人命救助や災害復旧に当たってきた。時代が変わっても、地域の安全を

都市型災害や豪雨災害に対して、ハードとソフト両方の対策で備えることが必要です。ハード対策は、河道掘削や放水路の建設、ダムや遊水池などの貯留施設の建設など、ソフト対策には、土地利用規制、ハザードマップの作成や水防訓練などがあります。

さらに、口頃から自分たちの住んでいる場所の地理的環境や周辺の状況を把握し、県や市、琵琶湖河川事務所がそれぞれ公表している「浸水想定区域図」や「ハザードマップ」で浸水状況などを参考にしながら、避難の準備をしておくことが大切です。そして、災害が起こった時は、自治体からの情報などを確認しながら、自分の身を守る必要があります。

大切なのは自分で守るという災害への心構え

琵琶湖河川事務所では、県と協働して、湖南流域、東近江・湖北圏域において、「水害、土砂災害に強い地域づくり協議会」を設立、流域住民自らが洪水被害を回避するシステム作り（自分で守る）、水防活動や避難行動を支援するための仕組み作り（みんなを守る）、土地利用の規制などを含めた被害軽減策（地域で守る）を基本理念とする取り組みを通じて、地域防災力の向上を目指しています。

また、県民を対象とした「防災・減災フォーラム」を開催して、情報提供や防災意識の啓発を行うほか、県や各市の防災訓練に積極的に協力しています。

同事務所の山本直副所長は、「ハード面の整備だけで災害をすべて防ぐことはできない。住民一人ひとりが口頃から、災害に備える心構えを持ち、地域ぐるみで防災意識を高め、連携していくことが必要である」と提言しています。

滋賀県には自主防災組織を組織して、勉強会や避難訓練といった積極的な活動を行っている

守るために使命感を持って、真っ先に最前線に駆けつけるのが建設業の人間であることに変わりない」と、滋賀県建設業協会の奥津弥壽信副会長は、建設業が防災に大きな役割を果たしていることを強調します。

現在、協会では国や県と災害協定を結び、大規模災害が起こった場合に、組織力を生かして対応できるように、協会本部災害対策マニュアル（委）や災害対策行動指針を策定しています。また、各支部にも防災対策委員会を設置して、支部単位で地元自治体と災害協定を結び、支部災害対策マニュアルやハザードマップを制作するほか、地域で確保できる建設資機材の把握、施工中の現場の把握などに取り組んでいます。

滋賀県では、東南海・南海地震や琵琶湖西岸断層帯地震などの危険性が指摘されていることから、協会では国や県、各自治体などが実施する合同防災訓練や図上訓練に参加して災害に備えています。

今後はマニュアルの評価や見直しを行いながら、より実践的な防災対策について検討を重ねていく予定です。

元氣な建設業が地域防災の要となる

奥津副会長は、「地元の建設業者は、災害発生現場に近く、人材、機材、資材はもろもろ、地元で協力ネットワークを持っている。また、道路や河川などの危険な箇所や周辺の地形などについて熟知しているうえ、図面がなくても現場の状況を見て対応できるという強みがある」と、災害時における建設業への期待が大きい理由を説明します。

災害に強い社会を実現するためには、地元建設業が参加した防災システムづくりが必要ですが、建設投資の減少などによって建設業の経営が厳しくなることで、地域における災害対応力



琵琶湖の水の出口で、瀬田川の流量をコントロールする瀬田川洗堰



山本副所長

団体が数多くあります。「地域コミュニティ」が形成されていることは、初期の災害救助に非常に役立つと思う」と言う山本副所長。

災害に関して「滋賀県は安心」「自分は絶対大丈夫」と言えないことを認識し、行政に頼るだけでなく、自分ができることは何か、地域で協力して取り組むことは何かを考え、実践していくことが、命と地域を守るために、私たち一人ひとりに求められています。



市民を対象とした「防災・減災フォーラム」を開催して防災意識の啓発を行っている。

の低下を招くことが危惧されています。

協会防災対策委員会の星山文基委員長は、「地元の建設業が元氣なことが、地域防災力を維持していくための要になる。例えば、雇用が厳しいからと、次を担う人材を育てることができなければ、災害現場で状況を見ながら、重機の操作を行う的確に人命救助を行ったり、二次災害を防ぐ復旧法を知っている人材がいなくなってしまう」と指摘します。

建設業の経営が厳しさを増す中でも、「社会的責任を担う業界として、行政・県民と協力しながら地域防災力の維持・向上に取り組んでいきたい」と言う星山委員長。災害に強いまちづくりなど、建設業の仕事や責務を正しく評価してもらうために、これからはもっと声を上げていくことも必要なのではないでしょうか。

企業活動をRevamp

BCCP（事業継続計画）とは、企業や行政が自然災害やテロ、新型インフルエンザなどの大流行といった緊急時でも、いち早く事業を再開し、業務を継続するための行動計画のことです。そのために必要な対応策を策定し、平時からの訓練やプランの見直しなども含めた環境整備を行っています。

災害発生時に素早い対応が求められる建設会社にとって、事業継続力は不可欠となります。大手ゼネコンだけでなく、地方の建設会社でもBCCPを策定する動きが広がっていますが、滋賀県建設業協会でも、今後、会員企業のBCCP策定をバックアップに取り組んでいく予定です。



協会では県などが主催する防災訓練に参加協力して、災害に備えている。



奥津副会長



星山委員長

信楽陶芸トリエンナーレ 2010 実行委員会

2010年10月1日から11月23日まで開催される「信楽陶芸トリエンナーレ2010」信楽まちなか芸術祭」。まち全体を会場にして、さまざまな芸術作品やアート体験を楽しむイベントを目指して、行政や窯元だけでなく、市民も参加して、さまざまなアイデアを出し合い、準備を進めてきました。

実行委員会の堀井誠明事務局長に、芸術祭にかける意気込みなどをうかがいました。

*トリエンナーレ…3年に1度開催される美術展

●今回の芸術祭の開催までの経緯についてお話しただけです。

甲賀市では地場産業信楽焼の生産額が最盛期の1/3以下となるなど産地の危機的な状況を踏まえ、この打開策として期間限定、地域限定で県から集中的な支援が受けられる滋賀県経済振興特区に平成18年にエントリーして採択されました。

以来、デザイン・プロデュースなどのものづくり支援のほか、海外への販路開拓や、人材開発、陶器の産地とのネットワークづくりなど、さまざまな事業に取り組んできました。「信楽陶芸トリエンナーレ2010」は、事業の最終年度に当たる今年、事業の集大成として開催されるものです。

●このように目的を明確に開催されるのですか。

芸術祭の基本コンセプトは、長い歴史に育まれた信楽のやきもの文化をもっと多くの方々に知っていただき、世界に向けて発信していくことです。そして、現代の暮らしの中で見失いがちな「心地よさ」「ゆとり」を感じてもらえるようなイベントを目指しています。

●まちなか芸術祭というコンセプトを掲げておられますね。

信楽のまちに残る古い民家や窯跡、田園の風景、朝宮茶などの特産品を生かして、街全体をフィールドミュージアムとし、周遊・分散型の展示で、まちを歩きながらアート作品を楽しんでもらえるように工夫しています。

具体的には信楽のまちの中に5つの会場を設けてガイドブックを参考に思い思いに散策していただくというものです。2つの美



術館のほか窯元や商店街の空き店舗、民家なども展示会場として活用します。とにかく、歩いてまちの風景や雰囲気を楽しんでいただきたいと思っています。

●盛りだくさんのイベントですが、特に見所やお勧めのイベントはありますか。

陶芸の森で開催される「ライフ・セラミックス展」は、デザイナーと窯元によるコラボレーションで商品開発した、今の暮らしのスタイルに合った陶器を展示します。

まちのあちこちで行われる「まちなみまるごとアート化活動」では、古い登り窯の修復のほか、土をたたき固めて建物をつくる「版築」という方法で家を建てます。事前に応募すれば参加体験もしていただけます。

また、段ボール製の等身大の力士が戦う「狸相撲 信楽場所」や、まちの風景の中からアルファベットの形を探す「A to Z 探検隊」など、お子さんも楽しめるイベントをいろいろ用意しています。

●やきもの文化の世界への発信という点については、どのような催しを企画されていますか。

備前、丹波、信楽、越前、瀬戸、常滑という、日本を代表する6つの産地の首長が一堂に会して、情報交換や交流事業を行う「日本六古窯サミット in 甲賀」を、芸術祭の初日に開催します。日本六古窯の世界進出をテーマに、各首長が発見、サミット宣言を行います。

●地元のみならず、芸術祭への期待も高まっているのはなぜでしょうか。

行政や窯元だけでなく、美術大学、地元商店

街や市民による協働で、知恵を絞り、手間をかけて準備してきましたので、地元のみならずの期待が高まっています。また、この経験は財産として、まちの活性化に生かしていきたいのです。

私たちは、このイベントを小さく生んで大きく育てたいと考えています。回を重ねるごとにグレードアップして、地域に根づくイベントとして育てていきたいと思っています。

ぜひ、たくさんの方々にも信楽を訪れて楽しんでいただいで、3年後の第2回につなげていきたいと思っています。



堀井 誠明さん

事務局長〇ほりいまさあき

1964年滋賀県草津市生まれ。育ちは埼玉県浦和市(現さいたま市)。1988年滋賀県庁入庁。住宅課、商工課、環境室、消防防災課、土地開発公社、人権施策推進課、下水道課、議会事務局、都市計画課を経て2010年1月より現職。現職:甲賀市産業経済部管理監(兼 特区推進室長)

信楽のまちに残る古い民家や窯跡を利用して、まちを散策しながらアート作品を楽しむ「信楽陶芸トリエンナーレ2010～信楽まちなか芸術祭～」

信楽陶芸トリエンナーレ2010～信楽まちなか芸術祭～

2010年10月1日(金)～11月23日(火・祝)

MIHO MUSEUM会場



秋季特別展

「古陶の譜 中世のやきもの一六古窯とその周辺」六古窯で生産された作品を中心に展覧し、中世のやきもの魅力に迫ります。

【観覧料】 大人1000円 高大生800円 小中学生300円

*陶芸の森との共通券は1280円



信楽ライフ・セラミックス展

【会場】 信楽産業展示館
「生活の心地よさ」をテーマに、現在活躍中のデザイナーと窯元がコラボレーションして新たな商品開発を行い、日常の暮らしに新たな生活シーンを提案します。

まちなか会場

窯元散策

窯元散策路に点在する窯元や工房をめぐり、普段見られない日常の製造風景が見学できます。

信楽の「今」陶芸展

【会場】 甲賀市信楽伝統産業会館

作家の一語・信楽での一会

【会場】 新宮神社境内
11月9日(火)～11月23日(火・祝)

地球の声を聴くために～風信楽～

登り窯を使ったサウンドアートが体験できます。
【会場】 丸又窯登り窯

信楽生まれの国際陶芸交流展

【会場】 川端倉庫

クローズアップ

「版築」による土の家づくり



石灰やにがりを混ぜた土を型枠に入れて、たたき締めながら建物を作る工法で、世界中で古くから受け継がれてきた「版築」。「まちなみまるごとアート化活動」の一環として、専門家とまちの人々、参加希望者が一緒になって、信楽に土の家を建てます。

黒壁国技館 狸相撲 信楽場所

観光客や地元の子どもたちが、段ボールで作った等身大の狸力士を使ってたたかいます。

【会場】 黒壁

【トーナメント日程】

10月10日、24日、31日、11月23日 13:00～16:00

*展示は期間中無休

土灯りの散歩道展覧会

光を透す粘度で制作された灯り作品を紹介します。

【会場】 植西電化倉庫

移動体ギャラリー

若手作家たちが移動可能な展示スペースでまちなかにギャラリー空間を作ります。

【会場】 藤喜陶苑、まちなか各所

まちなみまるごとアート化活動

まちなかにある信楽の「美」を発見し、手を加えたりしながらまちをまるごとアート化していきます。

【会場】 まちなか各所

A to Z 探検隊

まちの風景の中にあるAからZまでのアルファベットを地図を頼りに探します。

【会場】 まちなか各所



朝宮会場

朝宮茶と信楽焼

朝宮茶の歴史や製造工程、信楽焼の茶器などを紹介します。

【会場】 JAこうか朝宮店付近

【期間】 10月3日、17日、24日、31日、11月7日、14日、23日



陶芸の森会場



日本六古窯サミット in 甲賀

10月1日、2日に開催される日本六古窯サミットの関連事業として、室町時代の穴窯を復元した陶芸の森の「金山窯」で、窯詰めや窯焚きなどのワークショップ「室町・桃山再現焼成プロジェクト」が行われます。

【会場】 陶芸の森 太陽の広場
【期間】 10月9日(土)～11日(月・祝)



独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部長賞
「見極め」平谷 京子 [和歌山県]
作業をしておられる人の視線と真剣な態度が好感を覚える作品だ。



社団法人滋賀県土木施工管理技士会長賞
「夜間作業の人びと」山本 茂樹 [神奈川県]
夜間作業での道路工事の風景だが構図的に良い作品だ。



「自然の中で」
大西 宏徳 [愛知県]

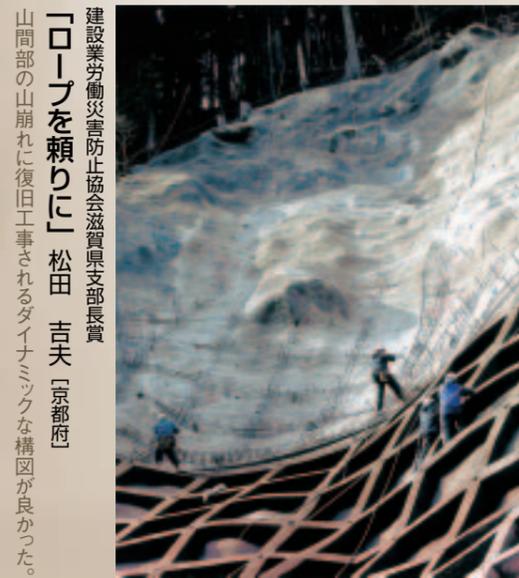


「チームワークで屋根作業」
岩元 禎 [愛媛県]



「輪! 話! 和!」
大野 政順 [滋賀県]

社団法人滋賀県建設産業団体連合会長賞
「アツチツチ」田中 博文 [滋賀県]
鉄骨の溶接作業を夜間に撮影された作者の目論見が見事な火花となって切り取られた。



建設業労働災害防止協会滋賀県支部長賞
「ロープを頼りに」松田 吉夫 [京都府]
山間部の山崩れに復旧工事されるダイナミックな構図が良かった。

優秀賞

第16回 PHOTO CONTEST 入賞作品

●審査員/滋賀県写真連盟 会長:川崎 透 並びに主催者

第一部 「建設業にはたらく人々」
第二部 「滋賀の建造・構造物(公益施設・町並み)」

- 主催/ (社) 滋賀県建設業協会
- 共催/ (株) 滋賀産業新聞社
- 後援/ 滋賀県、滋賀労働局、(独) 雇用・能力開発機構滋賀センター、西日本建設業保証(株) 滋賀支店、(社) 滋賀県建設産業団体連合会、滋賀県建設業協同組合、(社) 滋賀県土木施工管理技士会、建設業労働災害防止協会滋賀県支部、(独) 勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部、びわ湖放送(株)
- 協賛/ 滋賀県写真連盟、滋賀県カメラ材料商組合、株式会社 トミカラー

	応募者数	応募点数	第一部	第二部
総数	198人	314点	176点	138点
内訳	県内	94人	49点	100点
	県外	104人	165点	38点

入賞作品展のお知らせ

入場無料

- 10月9日(土)~28日(木)
環境科学館フェア(バルコナー設置)
滋賀県立水環境科学館(滋賀県草津市矢橋町帰帆2108)
- 10月30日(土) ポリテクカレッジ滋賀文化祭
滋賀職業能力開発短期大学校 [ポリテクカレッジ滋賀]
(滋賀県近江八幡市古川町1414)
- 11月19日(金)
建設業雇用改善推進大会
大津プリンスホテル [淡海ロビー]
(滋賀県大津市におの浜4-7-7)

審査後記

滋賀県写真連盟会長 川崎 透

314点と云う多数の作品が全国的から応募され、回を重ねるごとに斬新な作品があり、審査される方々も苦労されていると思われます。来年の出品作品に期待されます。

第一部「建設業にはたらく人々」(デジカメ・カメラ可)

「一束一束を大切に」
寺尾 幹男 [滋賀県]

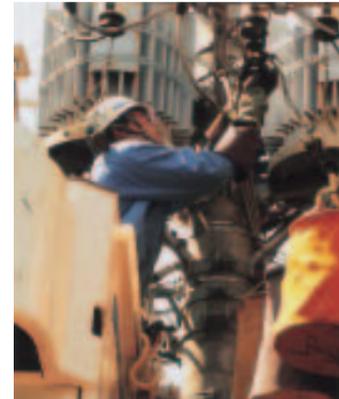
滋賀県知事賞
社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞



評 白川郷の屋根葺き替えをポイント的に切り取られた作品で見事な表現と思う。

入選

特別賞



BBCびわ湖放送株式会社賞
「ミスは許されない」
古垣 純三 [神奈川県]

第二部「滋賀の建造・構造物（公益施設・町並み）」

(カメラ・デジカメ可)

グランプリ



滋賀県知事賞
社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞

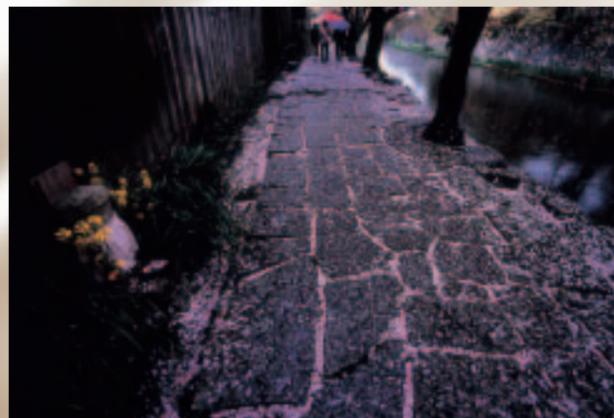
「キショウブの咲く頃」

谷崎 進 [滋賀県]
〈撮影場所／近江八幡市 八幡堀〉

評

菖蒲の黄色の花に囲まれた水郷八幡堀の水面を的確に切り取られた、構図・色彩共に良い作品となった。

優秀賞



株式会社滋賀産業新聞社長賞
「桜の道」川崎 孝子 [滋賀県] 〈撮影場所／近江八幡市 八幡堀〉
八幡堀の落花を全面に散らし、傘をさした人物を遠くに見ての構図が良かった。



「夢を接ぐ」
清水 進 [神奈川県]



「足場の解体ショー」
川内 聡和 [大阪府]



「守る姿」
小川 美津子 [滋賀県]



「絆」西村 忠員 [滋賀県]

「息もぴったり」
湯浅 登代丸 [京都府]



「突貫工事」
竹村 悦子 [高知県]



「下水道トンネル工事の最先端」
菅野 達郎 [神奈川県]

「もうすぐ世界一」
幅 周一 [東京都]



「熔接作業」
中谷 輝雄 [大阪府]



「ハライ」御苦労さん」
本間 浩一 [神奈川県]



「トリオで作業は順調」
藤波 喜競 [埼玉県]



「縁の下の力持ち!」
大島 文太 [滋賀県]

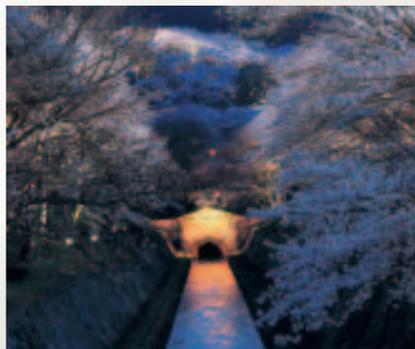
奨励賞

独立行政法人雇用・能力開発機構滋賀センター統括所長賞
「盛夏」福田 尚人 [滋賀県]
〈撮影場所／草津市立水生植物公園みずの森〉
風力発電と地元の花をあしらった見せ方が良い青空がとても良かった。





「アヒルト八幡堀」
藤江 紀子 [滋賀県] <撮影場所/近江八幡市>



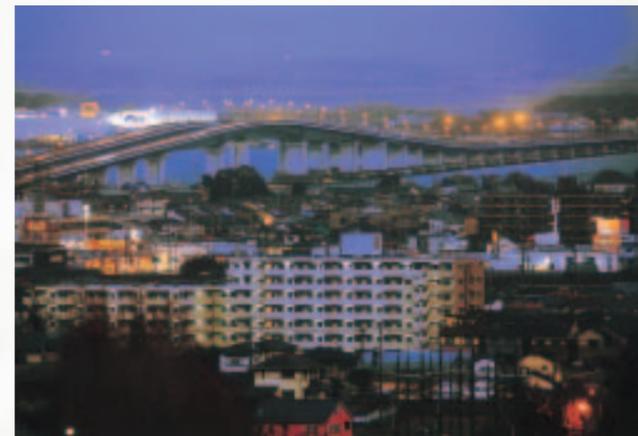
「春宵」
八田 義明 [滋賀県] <撮影場所/大津市>



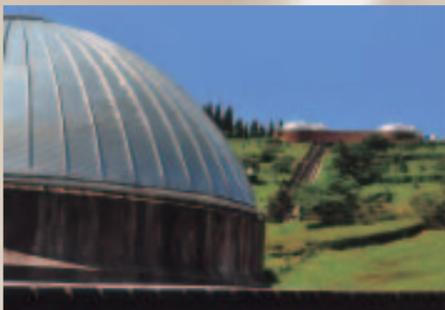
「要塞のごとく」
湖山 昌男 [奈良県]
<撮影場所/草津市津田江開門>



滋賀県建設業協同組合理事長賞
「花火の夜」前田 頼利 [滋賀県] <撮影場所/大津市 打出浜>
琵琶湖文化会館と県警本部庁舎の新旧を対象にして花火を写し込んだ作品は新しい試みだ。



西日本建設業保証株式会社 滋賀支店長賞
「琵琶湖大橋黄昏」本庄 重夫 [滋賀県] <撮影場所/大津市>
琵琶湖大橋を取り込んで郷土の夜景を広範囲に写し込まれた都会的な写真になった。



「ドームの丘」
渡辺 正 [滋賀県]
<撮影場所/信楽町 陶芸の森>



「梅雨の晴れ間」
脇 規子 [滋賀県]
<撮影場所/近江八幡市>



「楽園」舩 治雄 [滋賀県]
<撮影場所/甲賀市 水口町>

特別賞



BBCびわ湖放送株式会社賞
「ふしぎな建物」松本 恭博 [滋賀県]
<撮影場所/ひこね市文化プラザ付近>

入選



「春のブルーム」
相坂 竹雄 [滋賀県]
<撮影場所/日野町農業公園ブルームの丘>

奨励賞



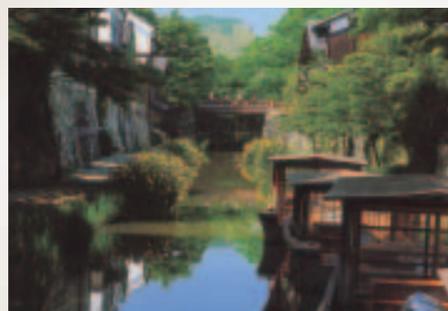
「陽光」武藤 繁一 [滋賀県]
<撮影場所/長浜市 長浜ドーム>



「剣の橋」藤川 茂 [滋賀県]
<撮影場所/信楽>



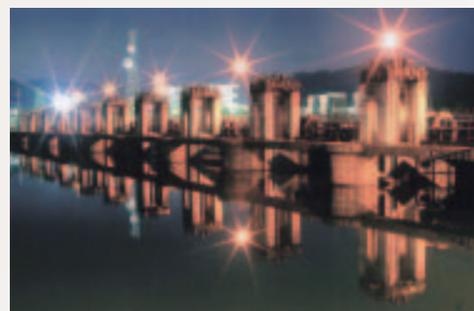
「屋外プールとモダン体育館」
大島 愛里 [滋賀県]
<撮影場所/高島市 朽木市場>



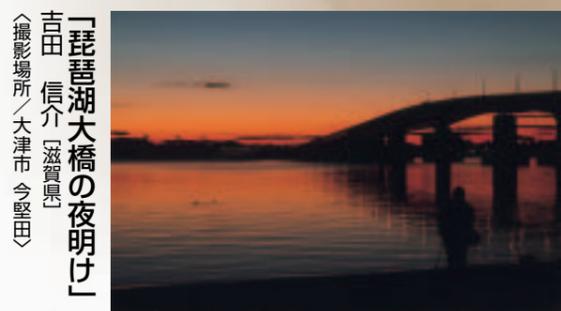
「こころ安らぐ場所」
桑原 達夫 [滋賀県] <撮影場所/近江八幡市>



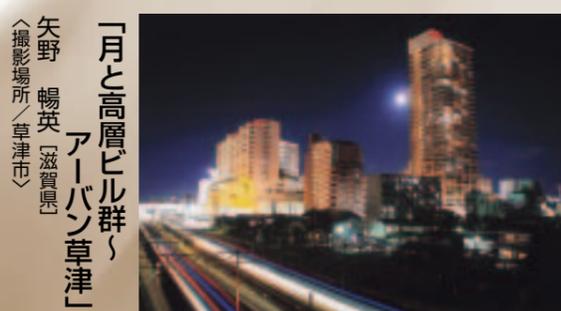
「構成」岡本 聖 [京都府]
<撮影場所/甲賀市信楽町ミホミュージアム>



「瀬田川に洗堰」
太田 年彦 [大阪府] <撮影場所/瀬田川洗堰>



「琵琶湖大橋の夜明け」
吉田 信介 [滋賀県]
<撮影場所/大津市 今堅田>



「月と高層ビル群」
アーバン草津
矢野 暢英 [滋賀県]
<撮影場所/草津市>

建設業を通じて魅力ある まちづくりに取り組み

株式会社 材光工務店

長浜市八幡東町428-1

代表取締役社長

伊藤光男

企画・提案型の 建設業をめざして

大正七年の創業以来、建築請負業として、公共工事のほか商業施設や事業所、工場などの施工を通じて、地元発展とともに歩んできた同社。長浜、トームや黒壁スクエアなど、広く市民に親しまれている建物の建設にも数多く携わってきました。

大型商業ゾーン開発事業第一号として、同社が長浜市内に「カラフルタウンCAN'S」を開発したのは五年前の昭和六〇年のこと。以来、昨年、草津市にオープンした「Cantier CAN'S 駒井沢」まで、長浜市や彦根市に複合商業施設を開発してきました。

「座してオファーが来るのを待つのではなく、自ら企画・提案して仕事を作り出していくために、建設業として何ができるかを考え続けてきた」と語る伊藤光男社長。用地を探し、その地域に合った施設を企画・建設して、テナントの募集から、施設の管理・運営までを一貫して手掛けています。

魅力あるまちのキーワードは 「動いている街」

伊藤社長は、中心市街地活性化計画基本計画に基づいて設立された「新長浜計画」という会社の経営に参加して、長浜の市街地にある町家を店舗などに再生したり、新しい施設を建設したりする事業にも取り組んでいます。年間二〇〇万人もの観光客が訪れる黒壁スクエアは、衰退した市街地を活性化したまちおこしの成功事例として全国的に注目を集めてきました。中心的なメンバーとして事業に携わってきた伊藤社長は、「活気に満ちた魅力あるまちづくりのキーワードは、つねに『動いている街』。動いているから、訪れる人に楽しさや感動を与えるエネルギーが生まれるし、また行ってみたいと思ってもらえる」と、成功のポイントについて語ります。

そのうえで、「今のようない時代には、できるだけお金をかけずに、新たな街の魅力を創出していくことは簡単なことではないが、動きを停めてしまつことは街の衰退につながる」とし、仲間とともにその動きをつくっていくのが、「新長浜計画」であると位置づけています。

「地域の発展、活性化という視点がなかったら、地域の建設業者として生きていけない。建設業者として、将来も続いていくまちづくりにつなぐに使命感を持っている」と語ります。

建築のエキスパートをめざし 生き残りを図る

これからの事業について、建築に関するどんなことにも対応できるエキスパートを目指し、地域のニーズに応える企業として生き残っていききたいと語る伊藤社長。

同社では、設計・施工だけでなく、「なおしや専科」という名称で、ちよつとした修理や器具の取り替えなどのニーズにも対応しています。「建物に関することなら、小さなことから

大きなことまで、工事の前の相談や調査の段階から、解体・廃棄物の処理といった最終段階まで、なんでもやれるということを強みにして、お客様の信頼に応えていきたい」と言う伊藤社長。

そのためには、知識や経験に基づく確かなコーディネート力が必要になり、また、それぞれの専門分野を生かしていくしよに仕事をすすめる協力会社などのネットワークづくりも大切になります。

「仕事を創出することで、企業が元気になり、まちも活性化されるし、人も育つ」と語る伊藤社長。かつて、衰退の途をたどっていた長浜の中心市街地を再生するために奔走し、知恵をしばった頃と変わらぬ、「長浜のまちを元気にしたい」という熱い思いを今も持ち続けています。



まちおこしの出発点となった黒壁一号館



長浜市内に同社が開発した複合型の大型商業ゾーン「風の街CAN'S」(右)と「カラフルタウンCAN'S」



本社社屋



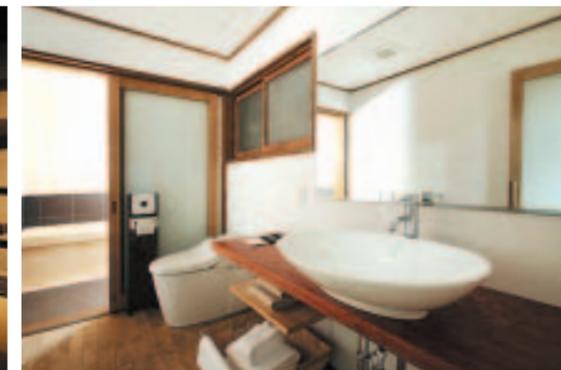
熊谷組JVによって平成3年に竣工した長浜ドーム



商業施設の施工も数多く手掛けている。



長浜の市街地に残る古い町家を改修、店舗などに再生する事業にも取り組んでいる。



住宅の新築やリフォームなども手掛ける同社、建築のエキスパートを目指している。



街の活性化に取り組む伊藤社長

大津市旧大津公会堂

●大津市浜大津

港町・浜大津の活気を
いまにつなぐモダン建築

琵琶湖をめぐる観光船の拠点・大津港。そのにぎわいを背にして建つ大津市旧大津公会堂は、タイル貼りの外観がモダンな、まちを代表する近代建築です。

戦前の昭和九年（一九三四年）、大津商工会議所と大津市立図書館を併設した「大津公会堂」として誕生。設計者は不明ですが、鉄骨コンクリート三階建てで地階もあり、当時市政の中心地であった港町・浜大津に巨費を投じて造られました。

戦後は全国に先駆け、市民の社会教育活動の拠点となるよう公民館として開館。演劇、音楽、美術など、戦後大津の文化活動を語るうえで欠かせない存在といえます。ここに集った芸術家たちのなかには小説家・花登隆の若き日の姿もありました。

長く市民の交流の場となってきた公会堂ですが、近年では老朽化が進み、利用者も減少する傾向に。そこで立ち上がったのが近隣の自治連合会。施設整備の要望書を市長に提出し、平成一五年（二〇〇三年）には公会堂をまちの顔として市街地活性化をめざす「大津まちなか元気回復委員会」が発足しました。



大津市旧大津公会堂

そして今年春、改修工事が完了した建物は、レストランやホール、多目的室などを備えた施設として再スタートを切り、早くも人気を集めています。

ライトに影響を受けた スクラッチタイルの外観

改修にあたりまず進められたのは残すべき優れた意匠の検討。耐震工事との兼ね合いもさることながら、度重なる改修や設備配管類の増設でデザインが著しく損なわれていた点も調査されました。

る手法は、大正十二年（一九三三年）にフランク・ロイド・ライトが帝国ホテルに用いて以降、大流行した意匠に影響を受けたもの。全体の四割が破損していました。信楽焼の技術を生かして再現されました。外壁タイルに付いた長年の汚れを洗い落としてみると、もとは緑がかった茶色であつたことがわかり、微妙な色のむらまで表現することで建築当初の面影をよみがえらせています。



アーチ窓が特徴のホール

外壁のスクラッチタイル エントランスには大理石が敷かれている 照明器具は建設当初のまま



建設は昭和9年（1934年）。本年春、改修オープンし、国登録有形文化財への申請が進められている。



建設当初、戦前のような様子。



昭和初期の浜大津の様子。右上が公会堂、塔のある建物は旧大津市役所。当時は建物のすぐそばが湖岸だった。



【大津市旧大津公会堂】
京阪浜大津駅下車すぐ、JR大津駅下車、徒歩約10分
〒520-0047大津市浜大津1丁目4-1 TEL.077-522-8220

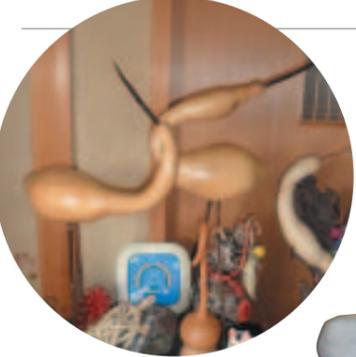
仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

手塩にかけた 瓢箪の作品づくりを 夫婦で楽しむ

株式会社笹川組 深田 賢治



左端の瓢箪は会社の安全祈願を願って深田さんが制作したもの



柔らかいうちに曲げて
鶴の形に仕上げた作品



細かい文様を慎重に
刻む深田さん

二十四、五年前から、知人といっしょに瓢箪の栽培を手掛けるようになりました。長瓢箪や丸瓢箪、大瓢箪などいろいろな種類の瓢箪を育てて、収穫した後は、妻と二人でさまざまな作品を作っています。

収穫後、一週間水に浸けて、皮と果肉を取り除いた後、長く乾燥させた瓢箪に、塗料を塗った後、水ペーパーで磨いて艶を出したり、細く切った和紙を絵柄を合わせながら、ていねいに貼って仕上げたものは妻の作品です。砕いた卵の殻や粉殻を二つずつ貼って、塗料を塗った手込んだものもあります。

私のほうは焼きこで虎や龍の絵を描いたり、カッターナイフで細かな文様や家紋を刻んで、中に電球を入れたりした作品を作っています。収穫して間もない柔らかいうちにクビの部分や曲げて、鶴などに見立てた作品を作ったり、瓢箪が成長する時に針金やネットを掛けて、形のおもしろさを楽しむこともあります。作品展などを見に行くと、アイデアを取り入れたりしながら、新しい作品づくりにチャレンジしています。



それぞれの作品を手にする深田さんご夫妻



猛暑の影響で不作だった今年の瓢箪

冬のうちに土づくりをして、大きく育て、から土づくりにして、の良い瓢箪ができるように、夏の間に、消毒や水の管理に気を配っています。

今年は異常な暑さで、思うような瓢箪ができませんでした。いっしょに瓢箪づくりをしてきた近所の仲間と、毎年、地域の文化祭に作品を出展してきましたが、今年は見合わせるようになりました。

もともと盆栽が趣味で、さまざまな野菜や花を育てることを楽しみにしています。大菊づくりに力を入れています。盆栽にしろ、瓢箪にしろ、愛情をかけて、手をかけて世話をしたら、ちゃんと応えてくれるのが魅力だと思います。

就業

制 緩 和

針 小 棒

安 吉 日

鉄道

擬 試 験

損 加 者

保 險

パズル クイズ

■の中に入る文字を教えてください。5つの漢字を組み合わせると、ヒント●話題の焦点



甘辛い焼きさばと出汁のしみた
そうめんが食欲をそそる

「焼きさばそうめん」



長浜市周辺の湖北地方には、郷土料理「焼きさばそうめん」が伝わっています。

焼きさばは、傷みややすい鯖を獲れたその場で、竹串に刺して炭火で焼いて、日持ちをよくした保存食。冷蔵保存のできなかった頃には、貴重な食材として若狭から山を越えて、近江や京都へさかんに運ばれました。このため若狭街道は「鯖街道」「鯖の道」とも呼ばれました。

この焼きさばは、温めてシヨウガ醤油を付けて食べるほか、だして甘辛く煮て食べるのが一般的です。その煮汁でそうめんも一緒に調理するのが「焼きさばそうめん」です。脂がほどよく抜けた焼きさばはあつさりとお食べやすく、また鯖の旨味がしみたそうめんは格別です。

長浜には、田植えの頃に、農家に嫁いだ娘を気づかした親が、五月見舞いとして嫁ぎ先へ焼きさばを送る習わしがありました。手軽に作つてすぐに食べることができて、しかも栄養価の高い焼きさばそうめんは、忙しい田植えの時期に重宝な定番料理でした。



電子レンジで温めるだけで手軽に郷土料理が楽しめる冷凍タイプの「焼きさばそうめん」



■焼きさばそうめん(乾麺タイプ、冷凍タイプ)の問い合わせ
株式会社富久や(ふくや)
TEL.0749-62-0692
<http://www.sabasoumen.com/>
同社社長が焼きさばそうめんについて語るブログもあります。
<http://ameblo.jp/okudosan>



©びわこビジターズビューロー
長浜曳山まつりのご馳走にも欠かせない焼きさばそうめん

また、4月に行われる長浜曳山まつりで、お客様をもてなすハレの日の食卓に欠かせない郷土料理としても知られています。

若狭湾のある福井県や、鯖街道が通る朽木にも焼きさばそうめんが伝わっていますが、なぜ長浜の郷土料理として定着したのかははっきりわかっていません。

長浜のまちには、焼きさばそうめんをメニューに加えているお店が多数あります。また、お土産として持ち帰って、手軽に家庭で楽しめる商品が開発され、メディアで取り上げられたこともあって、長浜の郷土料理として焼きさばそうめんの知名度が高まっています。

V O I C E 読者の声

いつも楽しく読んでいます。滋賀県には若い頃、毎日のように仕事に行っていました。歴史と文化の町で、彦根城を始め湖東三山、古い町並みも多く、心を癒してくれます。(伊藤 勝さん)

ページ数の少ない冊子ですが、内容が豊富で読みごたえがありました。取り上げられている記事もよかったです。(小林幹生さん)

滋賀県に河内の風穴のような興味深いところがあるとは思いませんでした。見学してみたいと思います。(東谷 宏さん)

「伊庭の坂下し祭」の記事、たいへんおもしろく拝読しました。行ってみたいくなりました。(片岡三郎さん)

特集記事を読んで県立図書館の偉大さを知りました。(小多 茂さん)

鏝絵というものを初めて知りました。実物が見たくなりました。(川島加代子さん)

以前勤めていた会社にも水耕栽培の実験棟がありました。近年、レタス等工場栽培の野菜が販売されているのを見ますが、県内にもあったのかと興味を覚えました。(片山久生さん)

人気のサラダパン、誕生のエピソードなども知ることができておもしろかったです。また彦根地方気象台がこんなに美しい建物とは知らず驚きました。(下村美恵さん)



前号の答え 「8」

パズル&クイズ当選者

- 松橋 和夫さん
- 今江 京子さん
- 辻 清美さん
- 川島加代子さん
- 藤川 洋さん
- 片山 久生さん
- 土川真由起さん
- 三谷ともみさん
- 下村 美恵さん
- 小林 浩基さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるって応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
平成23年1月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(社)滋賀県建設業協会 広報委員会

After Word

滋賀県建設業協会総会で会長以下すべての役職、組織が変更になりました。時代に合わせた委員会名称もでき、職務分掌も変更になりました。広報委員においては名称の変更はありませんが、人事一新!頼もしいメンバーと一緒に2年間がんばります!

先日キックオフということで、メンバーの皆さんと食事会(写真)をしたのですが、皆さんなかなかの食通ということがわかりました。これからは会合の時にご当地で有名な食べ物、特にB級グルメを中心に食していきたいと思えます。あるテレビ番組ではご当地ネタを全国に広めています、どのように情報収集しているのか、ネタもとを教えてください。我々が取材活動していくのが楽になるのに……

先日、メンバーと談笑していたら、独身のメンバーがある女性に告白したそうです。結果は撃沈(>_<)こたれていない彼は、新しい恋を探していくようです。今後この編集後記にて順次動向をお知らせしていきたいと思っております。

会社でいつの間にか写真クラブなるものができ強制入会させられました。お題が発表され、それにちなんだ作品を撮るため奔走しておりました。最初のお題は「赤いもの」私は草むらに佇む古いポストを見つけターを提出したところ、いつの間にか大きくプリントされました。次のお題は「食べ物」長浜の焼鯖そうめんを撮りました。いつまでお題が続く事やら……でも、広報委員会としては写真の勉強ができてよかったです(笑)



湖東三山で有名な金剛輪寺の北側にある斧磨集落の八幡神社で、新穀感謝祭に踊られる太鼓踊り。集落にある向山には、雨乞いに霊験あらたかな向山明神が祀られていて、昔から雨乞い祈願が盛んに行われ、収穫の後には返礼の太鼓踊りが奉納されました。

この太鼓踊りは、大正十三年以来途絶えていたが、地元の人々が「明神踊り保存会」を結成して、平成二年に六六年ぶりに復活されました。男性は白装束に縮太鼓、背中に「雨乞御禮」の旗指物と造花を付けた幌(ぼろ)を背負って踊り、女性は鮮やかな紫の着物姿で両手に花笠を持って踊ります。八幡神社の式典の後、午前十時頃から境内で披露されます。



湖国の祭りあれこれ

「斧磨明神踊り」愛荘町

11月第3または第4日曜
[愛荘町斧磨の八幡神社]



八幡神社へのアクセス●名神八日市ICから国道307号を彦根方面約20分
問い合わせ●愛荘町農林商工課 0749-37-8051

社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp

